

# よらんじょ サロン

震災により避難されている方のお茶飲み場



2017年7月20日(木)  
13:30~16:30



緑町コミュニティセンター 2階和室  
(武藏野市緑町3-1-17)

東日本大震災・原発事故により避難した皆さん、地域住民の方々、ボランティアなどが年代問わず集まっておしゃべりを楽しみ、避難のこと、生活のこと、健康や子育てなど、気軽に話し合う、相談し合うサロンです。

オープン時間内はいつ来てもいつ帰っても大丈夫。どうぞお立ち寄りください。

お茶やコーヒーを用意してお待ちしています(参加費無料です)。

宮城県気仙沼市、福島県福島市、郡山市、田村市、葛尾村、楢葉町、富岡町、浪江町、南相馬市、いわき市等から避難された皆さんが参加しています。



◎バス案内: JR中央線三鷹駅北口 1番のりばから北裏・武藏関駅・田無橋場ゆきに乗車。「武藏野市役所前」下車徒歩5分。

むさしのスマイル

主催・お問合せ

むさしのスマイル事務局

Tel. 070-6551-0315

# むさしのスマイルの「よらんしょサロン」が 特定非営利活動法人 難民を助ける会 様の会報で紹介されました。

平成 29 (2017) 年 6 月 1 日発行 毎月発行 第 428 号 発行人:長 有紀枝 発行:難民を助ける会 編集:AAR ニュース編集部

## “自主避難者”を支える場所

東日本大震災から 6 年以上が経過した今も、地震や津波、原発事故の影響を受けた故郷を離れ避難生活を続ける方々は 10 万 9,000 人、うち東京に暮らしている方は約 6,000 人にのぼります(4 月 28 日現在、復興庁)。発災直後から継続して被災地で活動を続けてきた AAR は、避難者支援団体「むさしのスマイル」を通じて、東京にいる避難者の方々への支援を開始しました。「むさしのスマイル」は、福島市から幼い子どもたちを連れて東京で避難生活を続けている岡田めぐみさん(下写真)が代表を務め、東京都内に暮らすボランティアの方々が支えています。4 月 28 日には「むさしのスマイル」主催で、避難者の方々が気軽に立ち寄れる茶話会「よらんしょサロン」を実施しました(右写真)。「よらんしょ」は福島の言葉で「お立ち寄りください」の意味。この日は福島県などから避難している 16 名の方が集まって情報交換し、近況を語り合いました。



「むさしのスマイル」代表の岡田めぐみさん。福島市から東京に避難してきたときは、身重の体で知人も何の情報もなく、大変だったと振り返ります

岡田さんは、避難指示の出でていない区域から逃れてきた人たちが、やむを得ず避難しているにもかかわらず“自主避難者”と呼ばれることが多いと違和感を感じるといいます。“自主避難者”的なかには、「避難の必要性が公に認められない」となど気に病み、周囲に事情を打ち明けられない人も多くいます。宮城県出身の男性は「被災地から来たということを隠して生活している人もいる」と話します。男性も避難してしばらくは東京に知人が誰もおらず、インターネットで避難者同士の交流の場を探したといいます。「人間は孤独になると絶望する。こういう場所の大切さは大規模な災害に遭ってみないとわからないかもしれませんのが…」。また「むさしのスマイル」事務局の梅田洋介さんは、こうした交流の場は、物理的な事情などからなかなか参加できなくても、避難者にとっては「何かあったらあそこに行けばいい」という心の支えにもなっているといいます。3月末には福島県内で出ていた避難指示も繰々と解除されました。が帰還する人は少なく、「皆“自主避難者”になってしまった」と岡田さん。そんな状況にも関わらず、被災



自主避難者の方が多く暮らす、武藏野市の集合住宅で行われた「よらんしょサロン」。月に 1 回、開催されています(4 月 28 日)

から 6 年が経ち、交流の場は資金難などからどんどん減っているのが現状だとのことです。

“自主避難者”も故郷の自宅を離れることにより、さまざまな出費を迫られ、経済的に苦しい生活に陥る人がいます。行政からの唯一の支援だった住宅の無償提供も 3 月末には打ち切られました。事務局によると、引っ越し費用もなくほかに行く当てもない方たちが、少なくとも東京都内に 200 世帯ほどいるとのことです。「むさしのスマイル」ではこうした方たちが強制退去を迫られないよう支援しながら、引き続き避難者が安心して語り合える「よらんしょサロン」など交流の場を設け、“自主避難者”的現状について発信する「かたりべ隊」を発足させるなどして活動を続ける予定です。

AAR は今後、東北の被災地の仮設住宅に残っている方々や避難指示が解除されて故郷に帰還された方々への傾聴活動などを継続するとともに、故郷から遠く離れて避難生活を続ける方々への支援を実施していきます。



仙台事務所 大原 真一郎

製造メーカーでの勤務を経て、2011年8月より現職。仙台を拠点に岩手、宮城、福島の被災地に毎日のように足を運び、復興支援を行う。宮城県仙台市出身



特定非営利活動法人 難民を助ける会

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 7F  
Tel.03-5423-4511 Fax.03-5423-4450  
[www.aarjapan.gr.jp](http://www.aarjapan.gr.jp) [www.facebook.com/aarjapan](https://www.facebook.com/aarjapan)

\*ご寄付は、寄付金控除の対象になります

1979 年にインドシナ難民支援を目的に日本で生まれた国際 NGO です。特定の政治や宗教に偏らず、多くの方々からのご寄付に支えられ、現在は、15 カ国で活動しています。紛争や災害などの困難に直面した人々へ、「困ったときはお互いさま」の精神で直ちに支援を届けるとともに、誰もが生命や生活を脅かされることのない社会を目指した活動を行っています。